WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

明治二十年八月六日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送稅

女學雜誌

第七十號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 70. AUGUST 6TH, 1887.

第七十號

EDITORIAL:—Another Word on Girl's Schools Established by Foreigners, and Jiji Shimpo's Verdict on the Christian System of Educating Girls Criticized.

LEADING ARTICLE:—Woman and Hygine, by Dr. K. Takagi.

MISCELLANIES:—Declaration of Tokyo Woman's Temperance Union; A Virtuous Lady: No. II; Skin and Bath.

BIOGRAPHIES:—Hugo Grotius and Book Case.

NOVEL:—"Human Characters Delineated": No. II.

CORRESPONDENCE:—London Times on the Woman's Dress Reform in Japan.

GENERAL NEWS.

●社說　時事新報耶蘇敎會女學校敎育法を評し再び外國人が設立する女學校の事に及ぶ

●論說　女子と衛生の四(高木兼寛述)

●叢話　東京婦人矯風會主意書。賢女の德義の二○皮膚の摸樣及沐浴の事

●佳傳　グローシアス夫人夫を救ひたる事

●小說　善惡の岐(中島俊子)

●寄書　倫敦タイムス日本女服改良論(高根虎松)

●新報　三十件

●廣告

●珊瑚の珠　(第三十五回)

○ソマービル夫人は著名の女學者あり而も裁縫が女子の心を慰るの大効あるヿを說きゼヲヂサンドと號したる有名の小說家ヂウデバンド夫人亦同樣の論あり蓋しゼヲヂエリヲット女史蓋世の稗史を著すの傍ら家内經濟を輕んずるを以て婦女子第一の欠點なりとしたるに同じき歟

○マダム、デ、メインテノン曰く女子が書たるものには文法上あまたの誤ありと仰さるゝか左らばとて殿方の書きたまへりしものに面白しと思はする迷はしの力あるは最と少きものに候はずや

○コーレリッヂ曰く余が知れる所にては七十以上の老婦人を分つて三種となすを得べし一に云く彼の愛すべき御老人二に云くあの老女三に云くあのタヌキ嫗これなり

○人の妻を御料人と云ふ料はハカラフとよみて內所のとどもを取計ふゆへ也御料とも云ふ御料人を畧したる詞なり今ま時人の娘の事を御料とも御料人とも云ふ人あり誤りなり嫁入をせずしていふまじきことなり光大が云く御料とは人の妻のとのみに限らず打つけに其名を云はずして尊みて云ふ詞なりと曾我物語に賴朝の事を御料と云へり(貞丈雜記)

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第七十號

明治廿年八月六日

●社説

○時事新報耶蘇教會女學校の教育法を評し再び外國人が設立する女學校の事に及ぶ

吾人は女學雜誌第六十六號の社説欄内に於て外國人が設立する女學校の事を論じ耶蘇教々師の方々が万里の波濤を越え數万の金を抛つて我日本國女流の爲に盡力さるゝ厚意の忝なきを謝し其教師諸君は抑も何の故に斯る勞苦を他邦民の爲に甘んじ且何如にかして能く斯る大金を年々に支給さるゝやの因縁を説明して專ら我國教育家の注意を促し併て日本國の紳士富權者に勸告する所ありたり然るに愚も誠あれば能く達するとか申す諺の如く此論亦衷情の少か見るべきものありたればにや外國諸教師方の愛讀を辱ふして望の外の好待を受たるのみか我國に於ては時事新報の記者をして去月廿九三十兩日の紙上に於て耶蘇教會女學校の教育法に付て素見を説かしむるの機會を與たる等幸甚の事と云ふべし元來吾人は前の論文に於て專ら外國諸教師方の厚意を謝し引續て之に少か吾人の考ふる所を申して其我邦民の爲に施さるゝ教育法につき多少參考の料をも供たしと希ひたるとなれば此際時事新報の社説を評し併せて異見の一二を述ぶるは正に適當の事なりと信ぜり。

時事新報が當今の耶蘇教會女學校に於て執行ふ教育法につきて先づ其智育の我國に適せざるとを説き後に其德育の實際に用少きを憾みたる箇條は多少各女學校の景況を取調べたる吾人の眼よりして之を見るに或は之れ記者が只だ尤も如此き弊多しとの評ある一二の女學校を見て以て全班を推し則ち速斷して遂に如此く激論するに至れるものならんとの推測を起さしむる廉も之れ無きにあらずと雖も惣躰の上よりして之を考ふるに記者の論一々實を穿ちて能く時弊に切中したりと思はるゝものあり耶蘇教々師の諸君は必ず首肯して之を受らるべきなり然るに記者の忠告は啻に耶蘇教主義の女學校に適するのみならず併て當今一般の女學校に適するものあり又啻に女學校にのみ適せずして上は帝國大學より下も普通の英語學校に至るまで凡そ英語學を專らとして子弟を教育する所の諸學校に適するものあるが故に斯る數多の學校を管理する所の諸君は皆な一樣に記者の忠告を謝すると共に之は多年吾等が同樣に苦心する所なりと答へ以て記者に慶應義塾の學制を問ふの外ならざるべし由ては此一事につき啻に耶蘇教諸教師を責

めて其女學校敎育法の宜からざるを告ぐるに止るは少しく言を一部分に儉約する者として憾なきを得ざる也。

抑も巧に英文を綴り得るも日本手紙の書方に不案內なりと云ふ事、之は當今一般の英學生に適當するの評なり蓋し今ま文明を西洋に倣ふの日に於ては大切の智識文藝を悉く英學の門に由て修ると當に然るべきの方たり左れば此際片苦しくして漠然たる漢學と軟々として迂遠なる和學をも併せて敎授するに當り授業上の困難一と方ならず生徒は大抵未だ和漢學の味を覺へざるの日に既に早く之を嫌ひ英學を習ひたる後たゞ休傍らに之を學ぶの趣あるを免れざるが故に凡そ英學校に於て和漢學を敎授するの困難は苟くも當今敎育の事に經驗ある者が皆一同に承知する所ならん、之は必しも和漢學に其價なきにあらずと雖も其授業上に組織の定らずして渾沌開闢以前の如き形跡あると之を敎授するに足る西洋風の敎師に適當の人物なきとに由て如此く書生の愛を受る能はざるものなり、故に英學書生は既に英學の一科を卒業して之より和漢學の効德を實際に承知すべき時に至り始て從來此等の學問を輕蔑したるの失策を後悔するもの比々として多し眞に憫れむべきものと雖も當今の形況に於ては此如きもの滔々として皆是なりと云ざるを得ず、故に英文に巧にして日本手紙の書方に不案內なるは啻に耶蘇敎女學校の女生徒のみかは堂々たる大學を卒業なりたる文學士中にも間ま時候見舞の書風受取狀の認め方等に當惑せらるゝの奇談なきにあらずと知るべし。之れを以て當今賢くも此一事の弊を免れたるは和漢學を主義とする古風の學校か寺子屋の舊制度を遺傳せる微々たる私立學校か又は生徒の眼中悉く算盤珠を納れ半身を西洋人にして半身を商人にする所云る實學の專門生を出さるゝ慶應義塾の外はあらざるべし。故に吾人は記者の評當今普通の時弊に的中するを思ふて遺憾至極の念に堪へず一日も早く斯る弊害を除きたくと希圖すると勿論なれども此一事を以て只唯だ耶蘇敎會女學校の敎育法を責るは甚だ酷なりとして少か辨ずる所なきを得ざる也。其外西洋編物は纔に端緒を得れども未だ日本服の裁縫を知らずと云ふ此の言共に實際に通ぜず今の耶蘇敎會女學校の十中八九は悉く此兩科を備ふると知るべし、又英詩の暗誦は感心なれども日本人中之を聞くの耳に乏しと云ふ之は先づ日本男子の耳の肥ゆるを待つの外なし併て日本唱歌を敎ゆるの科だに備はらバ別に苦情を言ふべきにあらずと云ふべし、又唱歌聲美なりと雖も家にピアノ、ヲルガンを備ふるもの

稀なりと云ふ之は男子の生徒が差當り政治家と爲らざるも政治經濟の學を習つて他日を待つに均しく女子の修藝として修むるものと思へば別段に不平とする所あらざるべき歟。次に德育の段に於ては記者の烱眼も僅に一二女學校の景況に惑はされて全躰を見るに及ばす大に事實を誤れるものあり又多少吾人と意見を異にするものあるなり。抑も耶穌敎會女學校本來の計畫は貧賤の子女敎育の資に乏しきものを助けて之に相當の學藝を授くるに在りとは思違の大なるものあり成程天主敎希臘敎の女學校に於ては或は如此き計畫もあらんか新敎の女學校中にも其一二は初め或は斯る計畫を以て設立したるものもあらん然れども之は十に比較して僅かに一二の割合に存する耶穌敎會女學校の惣體は特別に斯る目的を有せず貧富貴賤に關せず凡そ志あるものは入校を許して之に敎授すると云ふ事その第一の志願なるべく尙ほ學資補助の一事の如きも近來は之を許す所至て稀なるものと知るべし。扨て其講堂に於て重もに天神崇拜の一義を說敎すれども家門實地の德行說に就ては常に闕如たりと云ふ之れ或は然る所もあるべし但し之を以て女子德育の上に於て殆んど無効なるかの如く言ひ做すに至ては吾人の甘服せざる所なり、凡そ子弟を敎育する時之に高德の摸範を與へず只だ智育一邊の敎導を以て滿足せば是れぞ即ち人の子を賊ふと云ふ不測の弊害を起すものなり然るに高德の摸範を示すに足るの人物は容易に得べからざるが故に必ず宗敎あるものを用ひ且つ宗敎中實際に人に摸範を示すに足る生きたる宗旨を用ゆると大功となれり、慶應義塾には近年耶穌敎大に行れて子弟の德育之に由て成ると聞く記者等は今ま現に宗敎の効能を知らるゝものなり、然るに子弟敎育に此宗敎を要するの一事は敢て生徒の男女に依て異同あるものにあらずと雖も取分け其必要を感ずるは即ち女學校ならん、故に吾人は年來固く信ず凡そ女學校にして宗敎を用ひずよく女生徒の品德を養ふを得ると云はゞ吾人は文明の割腹を爲して之を謝すべし斷じて此れなきを誓ふものなり。彼の父母親戚に對するの處置日本西洋兩式を折衷するの覺悟等凡そ現今家門の實地に入用ある心得方は固より女學校に於て敎授すべきものたり今の耶穌敎會女學校中に於て万一尙ほ此を欠くの場所ありとせば一日も早く之を備へられんことを乞ふと共に世人は先づ斯の如き家門實地の德敎は生命を得て初て活動するものたるを知らざるべからず、明治の娘たり妻たり母たるの心得方を敎ゆるは一二ケ月にして足るべし但だ之が生命

となりて所云る道德心の基本を作るものに至ては日夜の修練と二三年の感化とを崇るにあらずんば能はず耶穌教會女學校の講堂に於て平生天神崇拜耶穌磔殺等の義を專に說敎して餘り精細の事に及ばざるは必竟その源を養ふものと知るべし、然るに若し此の根本の養を棄てゝ只だ手近に現れたる德育をのみ尊しと思はゞ是れ道德の理を知るもの常に道德家たるを得べしとの迂遠論を爲すものあり此一事即ち吾人が記者と意見を同ふせずと云ふ所のものあり。且や「日本古流の德敎を知らず左ればとて西洋貴婦人の品行をも知らず寄宿舍中自然に一種の品行を醸造し生物識に其學を誇り自ら女丈夫を任じて動もすれば儕輩を凌ぎ衣紋髮飾等渾べて世間並の流行に外れて自ら交際社會の外に標置し溫和貞淑の美德を欠く」と云へる惡結果は果して耶蘇敎會女學校の講堂に於て只だ天帝崇拜の如き事をのみ敎ゆるが故に由て來ると云ふ乎、然るに不思議にも此一段の評言は明治五六年より以來耶蘇敎主義を蛇蝎の如く嫌ひ專ら家門實地の心得方を講釋する女學校の女生徒中にも亦穿つが如く能く適當せり、故に之は當今の女生徒惣躰の弊害なりとして吾人が女學雜誌第四十九號女生徒の妻と題したる社說に一言したるものゝ參考を乞ふの外なきものなり」故に德育の段に對する記者の評論は或は事實を誤り或は意見穩當ならず最后に至り其改良案を記して第〇一女生徒を五人乃至十人づゝ特別の校舍に納て敎授すべしと云ふ特別の二字賛成する能はざるものと雖も凡そ女學校の寄宿舍は惣躰に如此く改良せざる可らざると甚だ明白なるが故に（女學雜誌第五十號女學校の寄宿舍と云へる社說にも詳論したり）論の宜きを得たるは言を待たず、第〇二宣敎師夫婦その私宅に於て良家の子女を敎育すべしと云ふ事之は今の女學校の女敎師方は大抵獨り者なれば耶蘇敎會女學校の改良法には通用すべからざるの言なりとは認るも尙ほ宣敎師の夫婦が別に斯る一法を設けて其私宅に斯る煩はしさを行はるゝの榮を得ば吾人は日本女生徒の爲に感謝して止まざるべし。

以上時事新報の記者が耶蘇敎々師の諸君に向つて其女學校の敎育法を論難したるものに對し或は之を辨じ或は之を賛す然るに吾人が兼てより敎師諸君に向て千慮一助の爲に瑣言を呈せんと欲する者は大に之に異る人ありて若し耶蘇敎女學校に弊害ありと云はゞ即ち其弊害は多くは此一事に由て生じ來ると認る所のものあり、本回の社說甚だ長きに過ぐるが故に今尤も淡泊に之を言はゞ即ち敎師諸君が其女學校の管理に適當

の日本人を用ひざるの一事即ち是れ也更に急激に之を言はゞ即ち日本人を信用せずと云へると即ち其の元因となれるものあり。凡そ外國の貴人高尚の志想を懷いて我國に渡來あるとも日本下等の人民は其厚意を知らず反て之を好き餌として巧に利益を貪ぼるものあり之は英國米國にも凡そ下等なる人民の間には惣じて免れがたき所の人情ありとせば左程特別に申述べきとにはあらずとは雖も此際外來の人々が自ら用心して其欺を免るゝの覺悟大切あるが上に其地の良民を信用して之が忠告に從ひ以て自ら守るの工夫を立るハ亦甚だ賢きとあり、然るに金錢上の事は其損たゞ一身に止まり迷惑を外に及ぼすと少しと雖も學校教育の事に就て万一斯る不良の民に欺かれて適當の人を信用せずんば其弊害や眞に測るべからず故に外國教師の諸君は一度び不良の人に欺かれてよりは用心堅固にして容易く日本人を信ぜず万事其意の如く管理して日本の習慣を顧みざる迄に至らるゝは教育を重んぜらるゝの精神よりして眞に免れ難きの事たり憾みは最初之を欺きたるの人に在れども左ればとて今ま法を盡し適當の人を擧ると亦難きにあらざるべし吾人は教師諸君が更に思を返へし道に依て日本人を信用するに至らんとを望むものなり。餘の事は言ハず凡そ女學校の女生徒を管理するには是非とも善良忠實の日本人其主位に在て之を支配せずんば眞正の女德決して養れるべからず蓋し女はよく外を裝ふものあり正直ある外國の教師諸君たゞ之を一見し其容姿と動作とに由て玉石を判たんとせバ處置大なる失策に歸し愛憎不公平の怨聲四方に起り陰陽行を異にするの悪風或は寄宿舍中に發生するとあらん之れ尤も歎くべきの事とす、故に耶蘇教會女學校の女教師諸君は只だ學藝教授を掌り西洋風俗の雛形を示すの傍ら女生徒惣躰を同一に見て會釋なく其感化を施さるゝに在り或は之を取捨し之に注意を加へ或は生徒を賞罰して其取締を嚴にする如きは即ち之を男女の本邦幹事に托して可なるべし、要、諸君が此の職に適當の人物を擧て之を信用するの一事に在る也。

然れども此の適當の人物を擧るに至て亦一様の困難を感ずると云ハん歟、思ふに之には數多の良方なきに非ざるべし。先づ新來の教師諸君は須く謙遜して多年在來したる教師方の言に從ふべし、宗旨上の差支なくば文部の大臣書記官に就て其人を聞くべし、此を民間の教育熱心家若干人に計るも亦不可なかるべし、或は其宗派の日本信徒中より八九人の諮問委員を撰み之をして更に一人を撰擧せしむるも亦可あるべし、若

し初より一人に僻せず且つ廣く問ふと決心せば其幹事の撰擧は案外に容易なるものならん、但し外國の教師諸君は其中心の正直なるに應じて一朝人を信ずれば殆んど同躰の如く之を愛顧し其末此の人に對しては如何なる批評をも容さゞるの弊往々にして之れ有り善者の一失と云ふべきものなり、故に吾人は日本信徒中より若干の委員を擧げ之をして一定の期限中在職すべき幹事を撰擧せしめて以て厚く之を信用し期に至て更に委員の考察を要するとし而して前后ともに之が取捨の權を外國諸教師の中に有せらるゝを以て最良の策ならんと信ずるもの也。

附言。一席の茶談に似たりと雖も兼て外國の方々に日本人を見る一の秘訣を申述たしと考ふるものあり事の序でなるを以て今玆に申さん、凡そ歐米諸外國民の習慣として日常の應接談話に心中の喜怒愛惡を明白に言現はし例へば眞面目にて私は心限り君を愛すと云ひ或は肩を聳やかして君の爲に盡力せんなど述るとあり日本人の眼に寫しては少しく恥かはしき程のものなり然るに之は多年交際の盛に行はれたる結果として遂に如此き習慣と成れるものなれば今ま假令ひ心に言ひ難きの情愛を有するものと雖も之を面に現はし口に述べざる限りは互に滿足せざるの風なるものならん歟、然るに我國は封建戰國の餘習今に存して喜怒の色に形はれざるを德とし特に喜、賞贊、信切等の言語を餘り曉々しく口に言現はすを以て輕薄者の常態と見做すが故に口に口籠らせて僅に一二言の禮謝恩言等を發するを以て反て無限の味なる君子の風采とは爲したり。此の一事東西殆んど表裏を爲すが故に悲ひ哉我國の輕薄人が行ふ所は恰も西洋人が尤も好む所に相應し彼の口賢こく喜を述べ喋々信切の言を吐て扨て怒不平等の樣姿は本來の得意に任せて甘く秘くし畢らす所云る豆腐男子は多く西洋人の愛顧を受るとなれり、俗談に或は「西洋人の信用を受る人なれば」と云ひ或は「彼人なれば西洋人に好かるべし」と形容して世の浮薄者を笑ふの評あるは即ち之が爲めなり。故に外國教師の方々にして若し沈默寡言容易に追勢辭を言はず喜びたりや不平なりや殆んど明白ならず時々は時刻の約束を違ふるとも大なる信義を失はず食卓上にも不快なる面色をなし委頼されたる事に頓に好返辭を出さず反て顏を犯して直ちに諫言を呈する如き流亞の日本人を賞し西洋人を撰むの試驗紙若し赤を用ひば我國には全く靑色の品を用ゆるとと爲さるべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

これ實に孔教の行はれたる日本國に適合する人材撰擧の秘訣たるなり

本回の社說　長きに過るも當今切迫の問題多きが故に殊に之を本號に論じ盡せり讀者乞ふ之を恕せよ

Studies serve for delight, for ornament, and for ability. Their chief use for delight is in privateness and retiring; for ornament, is in discourse; and for ability, is in the judgment and disposition of business.
Bacon.

●論說

○女子と衛生（其四）

海軍々醫總監　高木兼寬　演述　林　茂淳　筆記

着物の事に付きましては色々の說がありますから私も色々と考へましたが今日となッて見れば筒袖で下の方が二つになッて居る者即ち洋服を着るより外に仕方が有りませぬ。我々より先へ開けた人が色々と考て先づ今日の樣になッて居るのであの人が惡いとして棄てなければ我々より利口な者がいゝと云ふのですから之より外に先づいゝものは有りませぬ。又紫の袴をはいたところが善くも見えませぬ斯う申せば人によると高木は外國乞食で何でも舁ぎ込むと云ひませうがドウも外に仕方が御坐いませぬ洋服は害が有ると云ッても手も自由になり足も自由になるではありませぬか洋服嫌ひの者は常にコルセットの害になることを洋服を着る者は全く知らぬかのやうに云ひますがコルセットの害になる位のことは外國の人もトーから知ッて居ます。身體の形ばかりに偏して其害になることを顧みぬことは歎はしいと云ふことは昔しから云ふことです。何でも物には善いと惡いが用方によッて有るです。例へて云へば米の御膳でも朝から晩までたべ續けたらドウでせう。着物を着にも其通りですから成るたけ害の無いやうにしなければなりませぬ。害になるのはたゞ自分が姿見の前に立ッて形ちのことばかり考へるからです。

洋服でコルセットが害になるとした所が日本の女は腹をしめないかと云ふと縮緬か何かで澤山しめるです。自分でしめるばかりで無く二人ぐらゐに引きしめさせるです。また股のッケ子をくくッて居ます。其ですからしめ方に於てはアチラもコチラもタントは違ませぬ。コチラで大きな帯をしめますのはコルセットをしめますのと同じやうなものです。コルセットはヒドク用ふると害はヒドイが日本人も隨分コルセットに負ないほどしめて居るです。其れに日本の着物は手も足も自由に動かぬと云ッて見れば洋服に比べるとヨホド害が多いやうです。

さう云ふと「お前は洋服〳〵と云ふが金が無いと云ッたでは

無いか」と云ふお方が有りませうが其れも前に申し上た通りムダなタスキを拵へたり探したり足に綱を附けたりして居るから金が無いのです。金の無いのは貧乏の證據です。今日のやうな有様だから益々貧乏するのです。

西洋服と日本服の價に付てドチラが高いかと云へば其れは生れたときから洋服ばかりを生れたときから日本服とは日本服の方が高なります。尤も人によッて違ふが身分相應にすればさう高くはかゝりませぬ。今日高いやうに見ゆるのは一時にするからです。これから秋一枚春一枚と云ふやうに年々に拵へますれば決て高くはかゝりませぬ。また西洋服なら夏時なれば更紗でサッサと外出も出來ます。華族女學校などは廣袖で有りましたが今度洋服になッたのは大層廉くつきます。金が餘計にかゝると云ふことは決して有りませぬ。

人によると日本服の方が奇麗だと云ひます。ナルホド奇麗なやうですが奇麗ばかりいゝと云ふことはいけませぬ。カホッきがいゝと思ッてかゝると（さう云ッては濟みませぬが）いけませぬ。アナタ方もカホッキばかりいゝ男を御亭主になさると大層な損が有りますからよく御自分の爲め一家の爲め國の爲めになるものをお擇びなさらなければなりませぬ。櫻の花は立派で有るが實が無いからアレより花が無くても實の有る方がいゝ。イノチが短くなり金が無くなッたらドゥします。見た所ばかり奇麗でも仕方が無いです。尤も此の問催しの有ッたファンシーボールなどには奇麗な昔しの着物も隨分宜しいには違ないけれども平常にはツマル所大層な損になるのです。

まだ一つ云ふことが有ります其れは絹紐で胸をくゝることです。ヲトナはアバラを外れてヘソの邊をくゝりますが小さいときは胸をくゝるのが一般です。小さいときは肺臟のはたらきが肝腎の時分で有るのに大抵胸を絹紐で結んで居りますから皆な乳の下がへこんでオナカがムヤミに脹れます。他の國は知りませぬがイギリスでは百日咳を煩ッた子供の乳の下がへこんで居ります。私は日本に歸ッてから多くの子供を診るに大抵乳の下がへこんで居るから百日咳を煩ッたかと云ふとさうで無いです。着たる着物をといて見るとカワイガルほど餘計に絹のツケヒモで寒ひ時分には上に上にと六つ位しめて有ッて丁度鐵の輪を入れたと云ふやうになッて居るです。實にカワイサウな譯で其の爲に日本の人間が十分に發育の出來ぬやうに成ます。尤も今までは小さくて奇麗な人はもてましたから「ドゥゾ私も小さくなりたい」と云ッた者も多かッたが

これからの男は兵隊となり女ハ鐵砲を舁ぐことの出來るやうな男兒を産まなければいけませぬ。其れだから假令ひ今までの着物を着せるにしてもッケヒモをモット下に附けるやうにしなければいけませぬ。其れで胸があけばソコが人間ですから胸のあかないやうにする位な智慧が無ければなりませぬ。さうして胸を働くやうにしておやりなさるのが御自分等の爲めお子供の爲めで有ります。

履物のことも亦考へなければなりませぬ。ハキモノは何の爲めにはきませうか。衛生上の目的から云ば人の身躰はツムリのテッペンから足の爪先まで同じ温かさを保つやうになければならない。雨にぬれると風を引くから其憂の無いやうになければなりませぬ。加ふるに足を傷つけないやうになければなりませぬ。またあるく時分に石や竹や木ぎれなどに引ッかけて傷けぬやうにしなければなりませぬ。ツマリ外傷を防ぎ暑さ寒さを凌ぎ雨にぬれぬやうに雪にぬれぬやうにあるくに妨げのないやうなものでなければいけませぬ。ソコで日本のハキモノはドウかと云ふと雨がふッたら奇麗なのが汚なくなるから遂に足袋をも脱で履物は手に持ッてあるくと云ふやうになります。さうしないと此次のお祭や何かのときに穿くとが出來無いと云ふやうになります。其からまた雨のときに濡れます。雨で濡れる事さへ防ぐとが出來ぬ位ですから雪も防げぬです。其のみならず蹶躓ひて履物が其持主に怪我をさせることが度々有ッて初には骨つぎにかゝり其れからお醫者樣にかゝり一年も二年も三年もかゝりことによると生涯ハキモノの爲めにカタワになるものが有ります。

またはハキモノを穿き始めてから死ぬまでアシモトの用心と云ふ心配があります。日本のハキモノを穿ては迚も道の兩側を見てあるくことは出來ずして多くアシモトを見なければなりませぬ。其だから日本の人は外國の人から見ると脊骨が曲つて猫のセナカのやうです。私は外國から歸ッて來とき日本の人は多くセムシのやうに見ました。ナゼかと云ふと日本のたゞの人と外國のセムシト同じ位ですから。これには色々の原因がありますけれどもアシモトの心配も大いに之を助くるに違ないです。決してウソでは有ませぬ。殊に東京のミチなどはウッカリあるけませぬ此心配の爲に生涯の間には實に大層な損が有ります。

日本のハキモノは皆さうかと云ふに駒下駄でも足駄でもさうです。總てハキモノはカラダに合ッて居らなければなりませ

ぬ。雪踏などはチャラチャラと音はいゝが足を離れますから遠く行くにはいけませぬ。草鞋は足にピッタリ合ますから遠路を行によう御坐んす又た輕いから靴よりも宜う御坐んす世界中でも結構なる履物です靴は風通しがよくなく加ふるに目方が重ひ爲に草鞋よりも疲ます。併し通常草鞋を穿てあるくことは出來ますまい。

其れならばドゥ云ふものにしたら宜しいかと云ふに先靴が一番いゝやうです。靴だとアシモトの心配が少なくまた今日のやうな所へ來るにも便利です。若し下駄を穿いて來る時には札を受け取ッて下駄を預け歸る時には札を渡して下駄を受け取らなければならない。其れで若し札をなくすと下駄がドコに有か分らなくなります。また下駄を穿く人が多ければ下足番がいります。皆さんが靴を穿てお出でなければ下足番などは無てもいゝです。下足番の入るのは皆さんが下駄を穿いてお出なさるからです。下足番する人だけ國の爲めに損です。コンナとは小さいことのやうだが中々大きいです。新富町わたりで芝居が今ハチタと云と履物の騒ぎは中々大變です。また寄席などでも大變です。この下足番などに人を使ふと云ふとも國の貧乏を助ける道具になるから、癈なければなりませぬ。

其れから靴で上る所へ下駄で行くと白足袋を穿て居ても所謂足袋ハダシにならなければならない。人と(尤も氣の利いた所では麻裏か其他の履物が出て居ますが)ツキアイをするには同じ資格で無ければならない。社會のとは何でも多數によッていくより外に道が有りませぬ。其れならば靴なら害は無いかと云ふと靴にも害が有るです。其は皆さんが足の形ちに靴をこしらへないで靴の形ちに足をこしらへるので子供の靴を注文すれば東京では左も右も同じやうに靴屋が拵へますからドチラにドレを穿くかと云ふとドチラにでも穿れるやうにと云ふやうです。かはりがはりに穿けるやうにしておくと德用だと云ふにしても足の形ちが曲るに搆はないのは實に困ったものです　(未完)

● 叢話

○東京婦人矯風會主意書

東京婦人矯風會よりは此頃左の如き主意書を所々に送り益す廣く世人の贊成を望まるゝと云へり

明治十九年の十二月、始て東京婦人矯風會を設てより、玆に未だ一歳をも經ざれど、會員は既に一百八十名に越え、此間に成

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

したる事業も亦尠からず。然れども、吾等が預てより希圖したるものは、尙ほなかく〳〵に其十一をも遂ざれば、其大に勉むべき事は、之よりぞ更に一層に多かるべしと覺へぬ、故に、今ま本會の主旨を公にして、廣く世人の賛成を請ひ、吾等が當今に最も必要なりと考ふる者を、速に實行せばやと思へり、蓋は茲に申すと恐あるに似たれど、今ま我國には、上に英聖の皇帝ましまし、淑德の御聞高き皇后の宮、内に補佐ましく〳〵て維新の政をまた行はせ玉ふが中に、民に自由を得させ、人に平等の權を與て、男女ともじ〳〵に其おほん惠に沐浴せしめ玉ふぞ、古の明君賢主にも嘗て見奉らざる御德なるべし。然れば古來幾年と云ふ限なく、男は尊くして女は卑し、女は只だ男子の方々に召使れて、其心の儘に取扱れるべきものと定りたる惡習も、此御德の劍を以て切拂ハれ、今日の如く吾等女性が優待さるゝの日となれりしは、一に皆な上皇帝皇后兩陛下の恩德と云ふべし。此故に、凡そ陛下の臣民たらんものは、皆な其のおん志の程を躰し、且つ其御惠に報ひ奉るべき責のあるものとは申せども、此事につきては、吾等女性たらんもの、男子の方々にも優りて、彌や更らに覺悟すべき所の理あり。左らば、吾等女性の身に着きたる惡習の尙ほ去り難きは、一日も早う之を去り、尙ほ世に陛下の御志に反きて女性を卑むるの弊風あらんには、寸刻も早う之を除かんこと、眞に吾等が當然の心得方なるべしとは信ぜり。因て熟おもんみるに、先づ一家の内に於て夫と妻との間に、完全したる清潔の交際なきにはあらずや又妻と、夫の父母兄弟との間に、尙ほ言ひ難きの關係數多あるにあらずや又妻として一家を脩め母として子を敎育するの上に於て、女子たらんもの丶過甚だ多かるにあらずや。或は亦た父母が其娘孃に對するの習はせ、娘孃が親の命を聞て他に嫁するの風俗等、古よりの惡弊に染みて尙ほ去り難きもの少なからず。此等は、皆な家族の間に行はるゝ所の弊風なり。次に、世の人々の交際を見るに、婦人未だ其間に立入らずして、反て百の弊害を惹起さんとするものあり、或は尙ほ女子を一室に閉ぢ込て、其外向に出行んとを禁ずるものあり、其樣雜多なりと雖も、要するに、皆是れ世の人々の間に行れて吾等女性の爲に不利となる所の獘風なり。或は、世に、女流の地位を卑うすべきたわれ女の類、尙ほ公に行はれ、男子の方々の玩弄とならんとを甘んずるの女亦少なからず、故に女子にして男子を陷れんとし、男子にして女子を卑めんとするもの、尙甚だ多く、姦淫の空氣四方に滿ちて、道德倫理の、爲に破るゝ

もの數ふ可からず、或は酒煙草を初として、種々の害毒世の中に行はれ、吾等が家族を害ひ、吾等が一身を傷け、小くしては家を衰らせ、大にしては國を弱め吾等女性の進歩に對して少なからざるの妨害を爲すもの亦多くあり。又或は女子の風俗に數多の弊習ありて、其衞生を害し、其發育を妨ぐるもの少からず、故に衣服、服裝、粧飾、禮儀なんどの上に就て、特に女風の改むべきもの甚多し。其他當今女子敎育の道始て行れんとするに當りて、之れが進路を妨ぐる所の諸の弊風あり。又女子職業を盛んにせんとするに當りて、先づ取除かずば適ふまじき惡習あり。世の法律の上に就て考ふるも、倘早く改正を請ひたしと思ふも少からず。近く西洋より輸入したる女子改良の風俗中にも、倘ほ反て其惡しきを止めざるを得ざるものあり。一言にて之を言はゞ、當今上は法律の上を初として、風俗、習慣、及び、內外の交際の上に就き、亦衞生、敎育、授産の上に就て、殊に我國の女子の爲に除き去るべき弊風惡習甚だ多き事なり、之を以て、吾等女性は、上皇帝皇后兩陛下の御仁意を躰し、此際速に斯る惡弊を除き、世上の罪惡に迷んとする同胞の姉妹を導き、後世の女流を眞正の道に案內し、眞の美德を吾等の一身に養ひ、正當の路を踏んで進むべきの方向に進み、以て內に夫を補ひ、外に世の丈夫方を助け、內外公私に吾等の責を盡さんとは思へり東京婦人矯風會を設けて、日夜之が擴張に力を盡すものは、即ち之が爲にてあるなり」仰ぎ願くは、世上の貴婦人及紳士諸君、深く吾等が志を察して、本會の事業を賛成補翼あらんことを、伏して希ふになん。

明治二十年八月

婦人矯風會々頭　矢島かぢ子
假事務所東京日吉町女學雜誌社內

○賢女の德義　（其二）

本文に曰く賢女は手を伸べて困苦の人を救ひ貧しきものを賑はすと此は婦人に勸めて常に情深く世の哀れなるものに目を懸けんことを敎へ諭せることばなり凡そ婦人家の事を治め經濟を司り巳の業務を勵むは前號に說き置る若く極めて善きわざなれど只其れのみにては其心冷やかになり其性質頑僻に流れ果は古人の春風に比べたる女德をも失ふに至らん故に女子はつね〴〵心懸けて仁惠の事を行ひ哀憐の情を養ひ世のため人のために涙を流すことを得るものとならざるべからず夫れ婦人はセンチメンタリズム即ち感覺的の有樣に陷り易きものと聞く城を傾け家を亡ぼし万人を阱に誘入るゝの惡計を胸三寸の間に貯ふる藝娼妓の輩は芝居を見て哀なる場に至

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

れば人に先き立て泣き沈み其のさま何如にも殊勝氣に見ゆるあり鬼の眼に涙とは斯ることをこそ云ふなんめれ斯の如く假令人を哀れと思ひ千行の涙を流したればとて其の情を實際に及ぼし現に困苦の人を救ひ出さずては其の涙は彼の藝娼妓の似非涙と何ぞ撰ばん劇場の涙は流して而してのちに事終り活世界道德世界の涙は流して而してのちに仁惠の實業となり人を助くるの端を開くべし其差異天壤のみに非るあり噫女子世に貧人多きは以て汝の愛情を發育し汝の德性を養ふに足れり汝の炊婦汝の近隣には恩惠を施こすべき所充滿し哀れむべきもの救ふべきものは何處にも多し斯る世界に生れてたゞ巳の事をのみ顧み仁愛の働き無きときは家いよ〳〵富み財愈よ加はるに隨ひて德性は次第に衰へ良心を痴鈍にし人品を卑うするに至らん譬へば水一所に流れ集りて四方に分れ出ること無くば終に種々の害毒を發し其のほとりに住むもの丶災となるが如し水は流るゝに由り清く財は人を助くるに由りて清し女子天性に愛に富む世を哀れみ人を救はんこと固より其の分なりとす財あるものは財を以てし智惠あるものは智惠を以てし各分限に應じて仁愛の實業を務むるときは其の身は更なり家と夫と其德澤を被ふることゝならん

賢女は降雪に遭ふも其家の事を憂ふるを要せず其は家人皆な二重の衣を着得るに由と蓋し女子遠き慮りを爲し預め備へて物事に狼狽せざるを示せるの語あり男子は思慮粗大にして或は家計を誤り不測貧困に陷ること無しとせず故に女子宜しく小心翼々夏に在りて冬の準備を爲すなど先見遠慮に心を用ゐざるべからず家中の女子遠慮に乏しきときは該家の損害實に言ふべからざるものあり左れば凡そ女子たるもの降雪に遭ふて敢て狼狽せざるやう平生注意すること肝要なるべし遠慮もまた女德の一部分あるか

又曰く賢女巳のために衾を製る其の衣は絹と紫の布なりと夫れ女子の務めたる先づ第一に家人のために必要品を具へ仁惠のために應分の力を盡したる上におのが地位と資力とに適へる服飾を用ること敢て不可ありとせず左れど此に一つの困難なる問題は服飾の節度を定むることなり世間に最も規則の定め難きは服飾の程を宜うするに越すもの無かるべし今試みに數ヶ條大切と思はるゝ所を書き記して參考にまで供さん

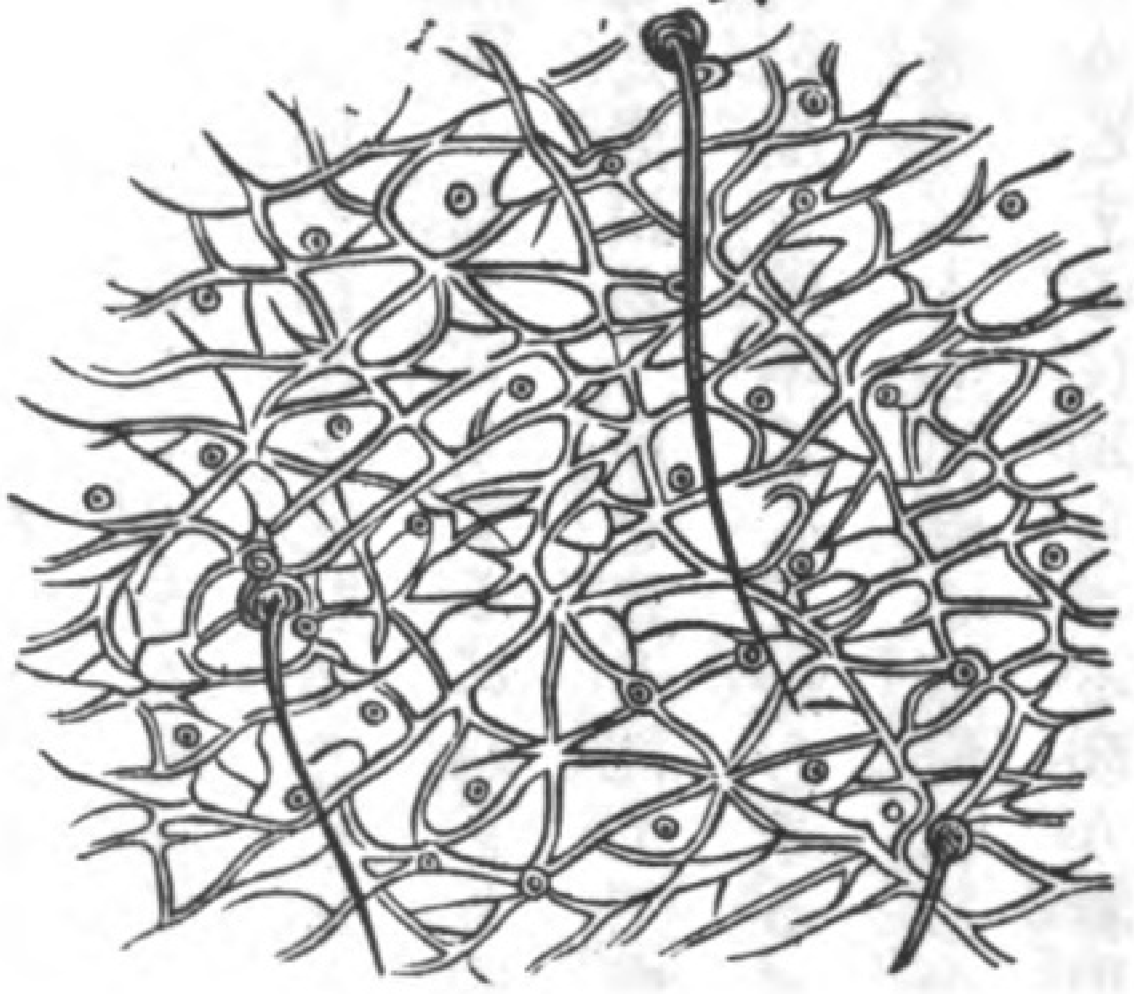
服飾は謙遜節度を標準として製らざるべからず道德上傲慢不遜なる心を表てにあらはせる服飾は設令如何やうに綺麗なるも眞に美なりとするに足らざるなり着用する人よりも衣服に

のみ觀るもの丶眼を止めしむる服飾は宜しきに適はざるものなり家の經濟に害なる衣は賢女の身に相應しからぬものなりすべて此等は謙遜節度の女德に背けること故大に愼み戒しめざるべからず凡そ華美は必要なることを爲し仁惠のわざを果して後ち其の餘力を以て飾るこそ善けれ女子上に記せるが若き用心して美麗なる服飾を身に着くることは可なり然れども眞正の服飾は心の上に存するものなるを記臆せよ立派なる女德は死するまでも朽ちざる服飾にして其芳しきこと其美しきことは名香にも優り綾羅錦繡にも迥かに越えたりとす賢女の德を有せず心の光澤を輝やかし得ずして徒らに着るものをひけらかす人は買客の大禮服を着け下賤なる醜女の十二一重を被ぎたるに異ならず具眼者より見れば可笑しきこと限り無かるべし如何なる美服といへども必らず身に適ふ程の心術を養ひ實業を務めたまへかし

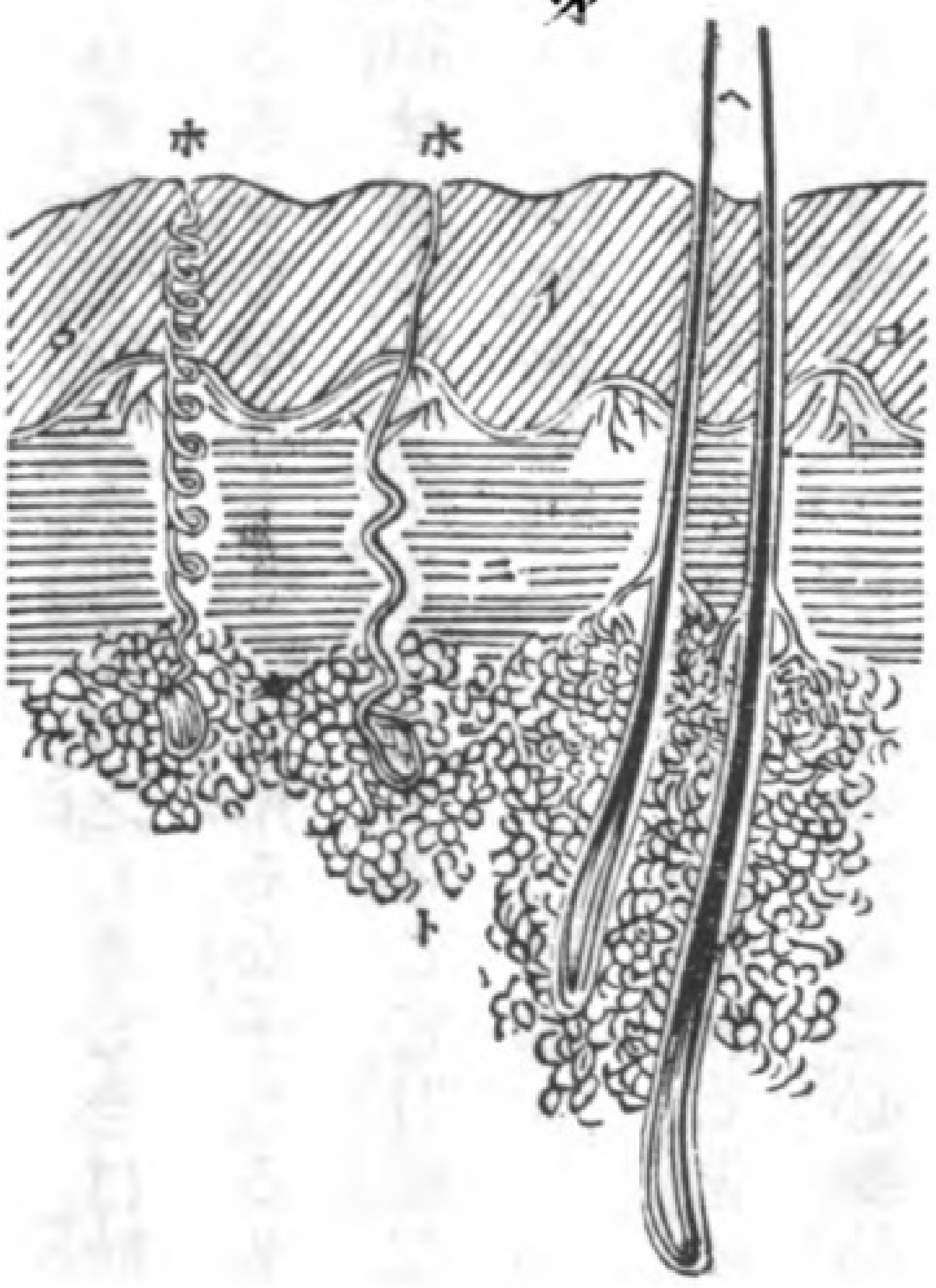
○皮膚の模樣及び沐浴の事

人間の身躰を被へるカハをば惣稱して皮膚とは申す之には御承知の如く毛も生へ毛穴もあり總べて躰内より發する水氣をば散ずるの塲所ともなり居るとなり下に揭げたる第一圖は之を表面より見たる所にして其實顯微鏡にて餘程多きく見たる樣

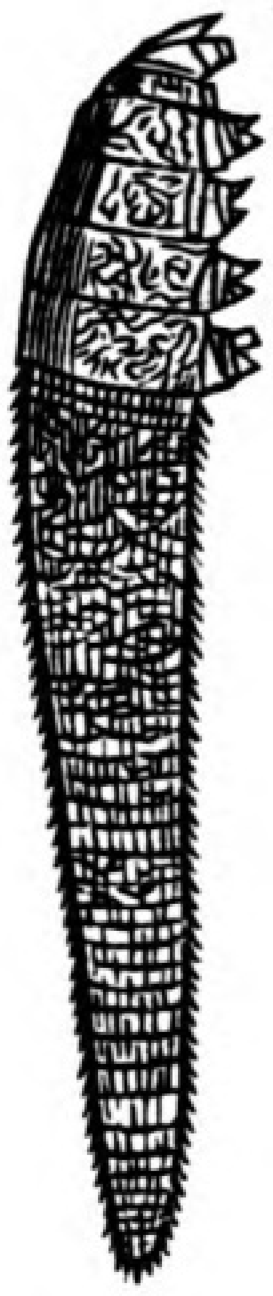
苐一



苐二



苐三



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なり黒きは毛、點の如く見ゆるは毛穴にて、其他縱横に割れたるは皮膚のスヂあり。又第二圖は之を横側より立切りて見たる所にてイは外皮なりロ及びニの邊はすべて眞の内皮なりハは油脂を出す管なりホは水氣を發散する管にして下は恰かも油脂の管につゞき上は表面に出でゝ卽はち毛穴となるなり又へは毛トは細胞躰と稱し皮膚と肉との間に存するものなり」

偖て此の外皮は風に當り日光に曝らさるゝより常に乾き易すく油氣水氣など少なければ日々剝けゆきてウロコの如くなりながら落るものなり但し内皮は此の外皮の剝げ行くに連れて次第に表面に現はるれば斯して新陳代謝し初て皮膚を丈夫にするものなり而して毛穴は卽ち肺臟より吐き出すガスの氣を發散しまた水氣をも分泌して跡にいろ〳〵の搬類を殘すものなるが其の數の夥しきこと實に驚くに堪ゆ博士ウヰルソン氏の調査に據れば手掌の一平方英寸の内にて都合三千五百二十八の穴あり而して此毛穴は卽ち長さ一英寸の四分一ほどの水氣管(圖中のホ)の口なれば此丈けの數によりて管の長さを合算すれば一平方英寸の内に惣計八百八十二英寸の長さの管あるものと知るべし但し之は餘程毛穴の多き人に就て云へるとなれば差當り一平方英寸に付其數を二千八百とすれば彼の管の長の合計は七百英寸ならん然に並の西洋人の身躰全躰には凡そ二千五百平方英寸あるものなれば此毛穴惣べて七百万個水氣管の長さ合せて四万八千六百ヤード卽ち殆んど二十八英里あるものと知るべし故に毎日此等の毛穴よりして少くも二三十ヲンスの水氣ガス氣等發散して以て人の身躰を丈夫にするものと云へり

然るに前にも述べたる如く外皮は風穴氣などに當りて兎角乾き易きものゆへ第二圖中のハと云へる管よりして始終油脂を出し之を皮の惣躰に行わたらせて甘く其の粘り氣を維持するとなるが此油脂氣の多き人は卽ち一見してつや〳〵したる油濃き人となり此氣少き人が卽ちサメ膚かヒヾの割れたる如き貧相の顏色身躰となるとなり扨て此油脂は斯く皮の粘り氣を能くするとは云へども之が爲に毛穴をふさぐにもあらず只だ餘り水氣などの甚しく發散するを防ぎ宜き程に加減して之を出さしむるものなれども玆に塵砂等集り來つて油と抱合し多少のカタマリを爲すときは則ち毛穴を塞ぐのみか第三圖に示す如き恐ろしき虫を生ぜしめ健康上大なる害を起すものあり盖し此虫は博士ウヰルソン氏が發見したるものにて長さ一英寸の四十五分の一あり頭を皮の下に入れて生長するものと云

ふ玆には顯微鏡にて其形を大きく見せたるものあり
左れば人間は度々風呂に入りまた毎朝水を以て躰をふき油と抱合して固まり着いたる塵砂の類を洗ひ落とし毛穴の口を能く開くと緊要なり而も右に云へる恐ろしき虫は水にて洗うとき直きに離れ去ると聞けば片々沐浴は怠らず爲すべきものなり殊に當今炎暑に臨みて汗多く出で躰の汚がるゝ時には尙更に身躰を清潔に洗ふと大切なりと知るべし

Water Cleanses by its Mechanical action in carrying away dirt and impurities, and also by its power of dissolving them. Youmans.

●佳傳

○グローシアス夫人夫を救ひたる事

今を距る大凡そ二百五六十年の昔にナッソウの侯マウリスとて世に名高きヲレンヂ侯の嗣子在はしけり其のホルランドの國主と爲りて追々に威權を加へたる比ろヲルデンバーチベルド及ひヒウゴグローシヤスと云へる二人の傑物ありて侯が志を伸ぶるの道を塞ぎたり中にもグローシアスは有名の才子にして西歷千五百八十三年四月デルフトに生れ十二の比ろ早くも嚴密の試驗に及第してレーデンの大學に入り十四と云へる年に數學哲學法學なんどの問題を論じて世の賞贊を受け其年遂に得業生の學位を得て更に羅甸文の名著を反譯し公に出版したるとあり又十七の頃となりてはハーギウにて法務に從事し政治上に大なる權力をも得たればグローシアスが文才及ひ法律上の智識に加へて益す世に名を轟かす種とはなりぬ左れば侯が其心の儘を行はんとて彼のバーチベルドを除くの傍ら此のグローシアスをも失はんと計られたるぞ權を貪る輩には有り勝の失德なるべし斯て侯は望の如く此二人の傑物を捕縛させ審理の法庭に召出して無罪の罪人をぞ取調べける果して何の落度かあらん只亂暴にも宣決してバーチベルドを首はねグローシアスをコーベンスタインの暗き牢獄に押込め一生禁錮すべしとは申渡しぬ抑も此の牢獄には四方に十三の門戶あれども皆な固く鎖して容易に開かず僅かに入口を備へて此の才子を生ながらの墓所へと葬りけり然るに事の不自由は之のみかは此の牢を潘する目付役は兼てグローシアスを讎敵とも心得たる「リウテナント」プロウユングス（又の名デベンターと云へる方反て世に知られたり）なりければ慈悲寬大の處置あるべくもあらず只だ唯だ僅かにグローシアスが心を慰めたるは時の公會よりの許可を以て扶持さるゝ事々にて其が中にも夫人及び愛娘コルチリアが日々獄內に往來し得たるの

一事ぞ世に類ひなき最大の喜なりしなるべし
グローシアス夫人はワール河を隔てたる一小都ゴルカムの地に其日の食料を買ひ調へ日毎に牢獄に來りて其傍らに料理し今年二十と云へる愛らしき侍女エルシーの助を得て沈鬱にやつれたる夫の配膳をば用意しける特に亦た用もなき獄内に夫の心を慰るは只書見の外あらずと思ひて心安き友人等を頼み數多の書籍を借り受て持參したり然るに此時グローシアスが多年取集めたる文書は禁獄の際その財産と共に沒收されたれば僅か計りの類をも所々より取集めて之をゴルカムの商人ダートサレーアの妻の許に置き大きやかなる箱に納れて獄へ持運び既に讀了りたるは亦た之に納めて彼の妻氏の家へ返へし更に新なる書籍に取換へて再び獄へ送るとせり往返度重なれば人も亦た其箱の特に大なるを奇しまず但だ河を横ぎりて之を彼此へと運送する兵卒どもは扨ても重き荷物かなと不平を言ふ事もありけるとぞ
グローシアスは斯る便宜を得て獄裏暗窟の下に書を繙とき靜坐深考して數多の書を著はし詩、反譯、論策、道德論、など其の筆端より流れ出づればローベンスタイン牢内の正氣は國内に奔りて彌よ此の才子の名譽を高うしたり然るに之と共に彼の本箱の往返いよ〳〵繁しくなりてグローシアスが勞苦尋常ならねば漸くにして其健康を害ね身躰穩ならずなりける夫人が哀れなる樣姿して其友達に語りたる「妾が籠の内の鳥は其翼も打たず泊り木にも宿らず只だ追々に瘦せて見ゆるぞ痛ましき然れど若し之に眞の翼を與へて彼處を飛び出させんには何如に嬉しからん」との言葉は即はちこの頃に申されたるものなるべし
然るに夫人はゴルカムにて強き繩を買たり蓋は其夫を助け出さんとの謀なるに似たりグローシアスも亦た日々出奔の計略を運らすの兆あり油斷すべきにあらずなど言ひ囃やすものありければ公會は委員を撰んで之を視察せしめたり委員等獄に參りて牢内の二ツの室を觀るにグローシアスは餘念なく机に拵て草稿を認め夫人は其外側に坐して舊びたる剪絨の下着の袖を繕らふ室内の見へん限り物品の在らん限り隈なく搜索して何の異變をも見ざれば其儘にして歸りたり
此時ミアスパンホーリーなるもの疑はし氣に例の本箱を認めて申すやう閣下あれなる箱に注意あらんとを乞ふ餘りに大きう候へば書籍の外何物か法外の品候はざらんやと云ふ委員等心を得て之を取調ぶるに大版の書籍の外なし遂に怪しまずし

て出て行きたるが扨てもグローシアスは煩れしさをつぶやき乍ら腰を屈めて一書を取出さんとし本箱の前に來れり夫人此時何事か急かに思出でたる氣色して夫の手を止め箱に眼を注いで「ホーリーの奴は何か法外の品あらんと云ひたり法外の品……法外の……」「ヒウゴ、之は彼奴の知るよりも尙ほ賢こく申したるあり茲には人一人の入るべき塲所候はずや」

グローシアス暫時目を光せたるが直に頭を打掉り「イヤ是は吾が死骸をこそ入るれ生たる間の車には不十分ならん竪僅に四英尺とても大なる人をば容るゝに足らじとは否みぬ（未完）

●小説

○善惡の岐（特別寄書）

一回の下

中嶋湘煙女史

村人のはなしの如く素何れの國如何なる人かは定かならねど其人品賤しからす寛恕仁德尤も崇むべきの性たり世上の塵をいとひてや孤村の敗寺を住家と爲し山川を客と爲し琴書を友と爲し己が根據と爲し快樂と爲すところは道德に外なく然れども一種特別の考を有するの士にして佛者の主義にも非す又孔孟の道德にもあらざりしと士の名を深山拾翠となん呼り村人等は旦那先生の通稱にて本名の如何なるをもしらぬがちなり花を探り翠を拾ひ風に嘯き月に吟して世俗の塵は脫却すれど世愁の繩は絕ちがたし初深山拾翠がこの村に來し間もなく拾翠の弟星之助なるもの拾翠の跡を索て來れり星之助元來酒を嗜み博奕を好み放蕩無賴拾翠も大にもてあまし幾度說き諭すも馬耳東風拾翠も無賴の星之助と同居するに堪へざれは別に小さき家を構へ妻を迎て置きたれども放逸は日増しに長し終には家を棄てゝ逃亡し行衞しれすなれり妻は既に一人の男子を擧け暫くこれを養ひつゝありしか終には愁積りて病となり子の行末を拾翠に托し淚を帶て天國の人となれり素より仁德高き拾翠の事殊に實弟の子なればすこしも已が子と異りなくめていつくしみてそだてたりこれに續て拾翠の妻も亦二人の女を遺して永眠不起の人となれり

拾翠も最愛の妻に死別れ二人の女は尙ほ幼く母を失ふて淋しけに父の膝に戲るゝを見ては鈍刀を以て膓を斷らるゝ如く悟んとするほど舊夢の胸に結れて聲なきに聞へ形なきに見へたのしき好山川好風月も都て舊時の色聲ならず乾坤は一時に怨家と變せし如く思はれて愁叢遣るに力なくぞ見へたりしが日月の經るに從ふて愁を忘るゝには非れとも今は二人の娘も一

人の甥も共に成長して父様叔父君と左に右に慕はるゝに聊かたのしき心地して日夜三人を傍ら近く種々の物事を説き教へなどして再び歡樂鄕の拾翠とはなれり

拾翠がこの村に住ひしより二十二年即慶應三年丁卯の春を迎ふるに至れり甥の名を一雄と呼び今年二十歳となり拾翠の姉娘を春琴と呼ひ妹を小桃と呼ふ春琴は十八にして小桃は十六姉妹共に其顔の美麗なる其姿の婀娜たる本朝の深草少將を惱殺せし小町もかくあらんか西施楊妃も恐くは其伍に列なるを得ざるべし古より美人世になきにあらずされど或は品位賤くして艶美人を殺すも優徳人を化するの色なく婀娜たる風前の柳姿なれど卓立たる雪中の梅操乏しく然るに姉の春琴こそ絶世の美人とも言べきか雲鬢は鬅鬙として雨後新緑の萌出る如く華顔雪よりも白く眼涼しく唇紅ひ雙眉新月を描き皓齒眞珠をつらぬるに異ならず朱唇語を弄すれは黄鳥の梭を飛するかと疑はれ羞潮頬を染むるときは細雨海棠の悶する色あり其性沈毅にして憂鬱の風情なく明智ありて自負の意なし謙退にして卑屈ならず嚴格にして驕らず天稟性質の高尚にして潔白なる事能く容顔の美麗にして潤澤あるにかなへり妹の小桃も姉に劣らぬ美人にして他人のこれを許する時には何れか勝れり何れか劣れりと言を得さるべし然かれとも其性聊か異なる處ありて怜悧俊爽面に見はれ快濶果斷不疑應答流るゝ如く亦匹稀なる少娘になん其從兄に當る一雄も父の放逸に似もやらで謹直慷慨讀書勉學怠らす常に歴史を繙て古英雄豪傑の士か彈丸黒子の間雨に沐し風に櫛り功名を天下に轟かし或は萬軍を叱咤して旗を中原に飜し或は自草莽より起て數千萬蒼民を統轄するの政權を握る如きを讀に至ては魂馳せ肉動き余亦誰ぞ時機のある有は爭でか世に謂ところの英雄豪傑の士に及さらんや世に不羈獨立天晴れ壯士とも唱へらるへき才學を以て空く僻村の陰君子となりて限りある日月を無益の死書に眼を勞らし千万卷の書を讀むとて何たる事のあるへきそこれ行尸のみこれ飯嚢のみ禽獸虫魚も猶能身を養ふに余は五尺の身を以て三寸の口をも糊する能はすして女々しく叔父が家の食客となり居事の殘念よ腰間の秋水血ぬるの時なきか腹裏の才畧用ゆるの日なきか英雄と云ひ豪傑と云もみな生れながらにして英雄なるにあらす豪傑なるに非す他より英雄たらしむるものありてなり豪傑たらしむるものありてなり何ぞや他なし時機のみ時機あるのみ時機果して何れの日より來かと割背扼腕吾を忘れて痛歎する事も屢なりと壯年の不平は多く無事に

苦しむるあり一雄の胸中想ひしらるべし

寄書

○倫敦タイムス日本女服改良の論

近着の倫敦タイムス新聞ニ東京通信者よりの日本衣服改良論に關する通信とタイムス記者の批評とを載せたり二文を通讀するに女服ニ關する西洋人一般の意見を窺ふに足るべければ譯して貴社に投ず　ガゼット新聞社内　髙根虎松

先便に日本にて近來女服改良論盛に行はるゝ事を報道せしに其後歐洲諸國ニて種々の批評を下す人あり殊ニ日本ニ暫時ニても在留したる西洋人中には洋服採用說ニ反對せらるゝ人多しと聞く成程日本の婦人は其衣服と着方の優美なるを以て人目を引き其容色に至りては先つ我輩西洋人より見れば美麗なりと思ふ者至て多し一般ニ美と云はんより深く優美の點に富めりと云べし西洋人一般の說に日本婦人は上深窓に生長したる令嬢より下は厨房ニ事を取る下女に到るまで若し夫相應の衣服を着するを見るに皆優美の分子なきもの非すと是れ其國服裝ニ依るヿ尤も多しとす若し此說を確めんとならば同一の婦人をして日本服と西洋服とを着せしめて比較するか或者洋裝の婦人と純然たる日本流の服を着せる婦人と混合する集會所に至りて見られよ洋裝の婦人は其不慣なる點より種々不都合も多かるべければ充分ニ之を加減するも苟も批評の眼目を具備する人は西洋服より日本服の方遙に優美にして且日本人に適せるヿを認めらるべし獨り優美の點に於て日本服の優れるのみならず其身躰を壓すると紗きが如きは衛生上洋服に優る處なり成程其足に纏ひて歩行に便ならざる欠點あれども其他に差して衛生上非難すべき點ありとも見へず其平たき帶を幾重にも纏ふ如きは身躰の緊要機關に温暖と保護を與うるの益あり又洋服ニ比すれば其價廉ニして高價なる寶玉飾物の如きは先つ日本服に在りては無用の品たり且つ一時の流行の劇烈なる決して洋服の如く甚しからざれは其か爲め昨年數百金を投して新調したる衣服をも今年は流行全く變したる故無用に屬せりと云ふが如きとは日本服ニなき所なり加ふるに日本服は前述の如き優美の性に適當する特性を有するを以て吾輩西洋人が局外に立て現今日本の女服改良論の盛なるを見て憂慮するものは決して道理なきヿに非るべし然し玆に考ふべきヿは日本人は斯く自巳の長所あるニも拘らず外國の風俗に摸倣せんと欲する念の切なるは所謂彼の猿猴の人眞似の類にして西洋の風俗習慣なれはとて一も二もなく便不便をも論せず之を採用するニ及びたりしや或は確固たる理由ありてのヿとなるや論者或は日本人を評して新奇の玩弄物を渴望する小兒に異ならずと云ふものあれども西洋女服採用の一事に至りては決して此の如き批評を受くるヿはなかるべし風說ニ據れば畏れ多くも伊藤伯自ら皇后宮陛下に上奏して女服採用を勸誘せられ布て今日の如く一般に普及せんとする勢に及びたりなりと抑も總理大臣は何故斯る處置ニ及はれたるや必ず深き理由の存するヿならん余は今風說の傳ふる處に依りて其原因を一言すべし

先つ伯の目的を知るニ日本現今の狀況を觀察するを要す苟も日本現今の狀態に注視せらるゝの士は知らるべし今日は實ニ日本に取りては尤も要用なる時代たるヿを此二十年來政治に法律に教育ニ非常長足の進歩をなし萬國の喝采を博したりと雖とも日本は決して是にて滿足すべきニ非ず巳に文明の途上に歐米諸國の競走の仲間入をせしからは唯に政治的に關したる事柄のみならず社交上德義上苟も短所のあらん限り之を改良するを要す日本は文明史上一個の新國なるを以て種々雜多異風の現象あるは決して怪しむに足らぬ事ながら殊更に目立て歐人の目を射るものは其他の點に於て文明の精神を採用したるにも拘らず其婦人の位置に到りては依然たる舊日本の範圍を脱せざるヿ是なり若し此の大改革に際し婦人にして蹶起して一方の衝に當り改良の事に從はゞ其運動圓活にして成功も速ならんと疑いなし然るに今日日本の婦人の狀を察するに他人の爲めニ世に生れたるものゝ如く自巳の權理とては皆無の如く未た處女たるや其兩親々屬に從隸して殆んど小兒に異ならず巳に嫁するや奴隷家畜の如き取扱を被り離緣せらるゝも其夫の氣隨に任し妻に於て殆んど可否の權なきが如し此時に際して之を改良するに婦女ニ完全なる教育を授け獨立自治の精神を養成し財產の權利を與うる等のヿ勿論目下の急務なりと雖とも之と同時ニ世間に出でゝも一家に在りても高尙なる位置を占めしめ婚姻法を制定して其權理を保護し男女の交際を盛ニして青年の男女に相撰む處を知らしめずんは此畀下極りたる婦人の位置を改良するヿは六ケ敷かるべし（未完）

新報

○女子の體育法　文部省にては女子體育法を制定せん爲め各國の體育法を取調へ既に其草案は脫稿せしも實際本邦の婦女子に適用し難き所もありて其儘中止の姿となりしが尙ほ再考の上彼我參酌して完全なる體育法を制定する由なり

○梅花女學校　大坂土佐堀裏町の梅花女學校は先般來從來の校舍を毀ち更に三層の屋舍に改築し教塲塾舍とも悉皆此所に具備せしむるの目的なりしが其後入校を望むもの日ゝ增加し到底最初の計畫通りニては入宿生を容るゝ能はざるより今度更に從來の校舍を二層の屋舍に改築して寄宿舍に充て而して昨年購求して教塲となせし同校の西南筋向の家の西隣に於て更ニ一家屋を購求し此東西兩屋を合して一の教塲となすヿに定めたるニ付き自然豫算上ニ千五百圓餘の不足を生したれば是も亦設立の時の方法ニ倣ひ有志者の義捐を待て補充する計畫なりと云ふ

○豐橋手藝學校　三州豐橋札木町の手藝學校にては去廿三日本年一月より入學せし娼妓生徒の習字算術裁縫三課の試驗を施行せしが何れも其成績は見事なりしと又其中には作文讀書修身等を學ぶもの數名あるを以て其特別生には不日郡役所吏員の立會を請ひ試驗を執行する筈なり

○本願寺の女學校　大谷派本願寺ニては今度女子學校を設立する計畫ありと噂せり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○私立女子手藝學校　今度神戸の有志者九鬼隆義、佐畑信之、野村政知、關戸由義の四氏が發起にて同地元町四丁目へ私立女子手藝學校を設立し去一日より開業し來月一日を以て開校の式を執行すると聞く同校は女子に適する手藝職業幷びに簡易必要の文學を授け或は家事を理し或ひは職業を爲すものを養成する所にて學科を甲乙丙の三科に分ち甲科は和洋服裁縫、編物、刺繍、押繪、レース、圖畫の六課、乙科は讀書、算術、圖畫の三課、丙科は英語にて修業年限は各科とも三ケ年とし敎師は重に外人を聘せり今其設立趣旨書を得たれど餘白なければ之を略しぬ

○乳母撿査所　今度京都の有志者福永、岡本の兩氏外數名の發起にて乳母撿査所と云ふを設るよし其方法は乳母となるべきものは同所に於て乳質の良否等を試驗し其良質の者には撿査証を與へて廣く需めに應するの仕掛なり尤とも時日を定め病院より醫師が出張し撿査する都合なりと云ふ

○產婆生卒業　山形產婆傳習所の生徒十一名は今度卒業せしに付き去三十日同地の濟生舘講堂に於て其証書授與式を執行せり

○新工夫の洋服地　福岡縣福岡因幡町船田武貫氏の妻某は此程自ら一種木綿の洋服地を發明し試みの爲め織立たるに地合耩摒等もよく代價も僅か一圓三四十錢にて出來上る由なれは目今多分に織立つることならば望みは定めて多からんとの噂なり

○熊本婦人談話會　熊本區の婦人は此程同會を設立し毎月一回宛集會して各談話を爲す由なりしが其目的は專ら女子の智識を開發し女子の權理自由を伸張し男子と同等の位地に至らしめんとするにありと

○肥前島原景況　弊地島原は西海の僻地に偏在して可なり一小港をなし候へば婦女の腐敗と青年の方向を誤まるなどは忍びて記錄す可らず由て一抹に附し申候高等尋常の兩女子小學校は大手に之れ有り候前月一日より大村人澤田愛作氏參られ英語を女生に敎授せらる尤も他の男生にも敎授あるとに御坐候澤田は東京早稻田の專門學校にて政治學兼英學科を卒業されし人の由にて小生も有志輩と共に數度面會致候去廿日より同廿六日まで生徒學期試驗之れ有り三十日卒業證書授與の由目下女生の就業は敎育の外裁縫科あり之れも矢張り試驗ある事にて當九月よりは女生徒に洋服仕立を傳習せしめ則ち自から製して自から服すると云ふ趣向と相成り候由其敎師は未だ到着せず一說に肥後人とか又ハ長崎人とか申候尤も目今の裁縫師ハ板倉すよ子とて弊地士族に候なり弊地の妻君達ハ惜ひ哉活潑の氣象に乏しく家事の談合なきハ素より通例裁縫割烹を以て安心致し官吏社會の婦人ハ月琴をるがんなど以て切めてもの慰めと被致候官吏社會の婦人達の素姓ハ聞知致し候へ共名譽にも係はれハ不申上候尤も弊地東堀端に於て士族共立に係る恒產會社內にてハ近日まで盛んに婦人を使役し蠶糸を採り候其女工人數凡り二三十人もやと略算仕候束髮ハ重もに上等社會の婦人及び二三の藝妓輩にハ有を見候（淸水紫三氏報）

○仙台婦人懇風會　同會を設立ありたる由人見ぎん子より來報あり尙その會則を見るに主旨とする所ろ基督教主義の道德に基て社會の弊風を矯正し婦人の品位を進むるに在りと云ふ同會則第三條を擧て其大略を示す

第三條　本會員たるものハ深く本會の主旨を躰し上帝の祐助を仰き左の數項を確守すべし

一　飮酒喫煙を禁すると
二　萬事規程を立て無益に時間を費さゝると
　　但起臥飮食交際等の時限ハ冬夏の季節に隨つて變更すへし
三　飮食衣服器具等ハ實用を專とし奢侈に流るへからす
四　身體を淸潔にし猥りに肌膚を露さゝる樣注意すると
五　凡て猥褻の傾向ある遊技を避くると
六　禮節を重し家政を整頓し子女の敎育に心を用ふると

○江浦婦人協會　筑後三池郡江浦村の有志者ハ今度江浦婦人協會なるものを組織したり

○埼玉婦人協會　吉田埼玉縣知事の夫人外二三の有志婦人が主唱にて此程題號の如き會を起さんと同志を募集されしに目下巳に六十餘名の賛成者あれハ日ならず發會式を執行する樣子なりと

○栗原婦人會　宮城縣栗原郡築舘驛にてハ婦德を涵養して漸次男尊女卑の弊を革め文明國の婦女たるに愧ぢざらん事を勉むるの目的にて同地郡長の夫人及び小學校女敎師達が主唱となり題號の如き會を起し去る十六日を以て其第一會を執行したり當日の會ハ會則議定及び役員撰擧の爲にして來會者ハ驛內良家の婦女三十餘名男子ハ五名なりし會長にハ伊達ゑん子を、幹事にハ横山りやう子、近藤親賢氏外一名を撰擧し孰れも承諾せり次に郡長遠藤氏、會長伊達ゑん子、幹事近藤親賢氏、來賓上野道之助氏等演說あり最後に白石恪氏實地に就て化學上酸素の取方並びに反應の景況を示し終りて會長より會員一同へ晩餐を饗し黃昏過くる頃全く散會せりと今其趣旨書を得たれど餘白なき故之を略す

○婦人協會　群馬縣西群馬郡矢中村秋山高藏氏ハ埼玉縣男衾郡富田村の淸水七五郞氏と謀り我邦婦人の地位を高め男子と肩を比ぶるの端緒を開かんとの目的にて今度中仙道熊谷驛へ一の婦人協會を起さんと周旋中なるが追てハ群馬埼玉聯合婦人協會と改稱し廣く兩縣婦人社會の改良を圖る見込なりと云

○婦人の差入物　大坂府東區北濱四丁目平山英夫氏の妻勝子、同區谷町一町目山本憲氏（國事犯者）の妻榮子、栃木縣人新井章吾氏（同上）の妻種子等の各婦人ハ目下公判中なる大坂國事犯被告諸氏一同へ「正氣」の二字を大書したる扇子幷に手巾を差入れたりと云ふ

○景山英女へ差入物　京都人祇園新地の藝妓みよ鶴、種次、君松等の藝妓が發起にて目下大坂重罪裁判所にて公判中の被告人景山英女へ同地藝妓一同より差入物をなさんとの事に賛成者多く目下集會中なるが此話を聞き東京にてハ湯島天神の藝妓尾花や小花、藤村屋小きん等が主唱となり同女へ差入物をなさんと是亦周旋中

のよしなくもがな

○女生徒の洋裝　宮城縣栗原郡築館驛にては郡長遠藤氏ゟ皇后宮陛下の女服改良の思召書に依り是迄の女裝を改良せざる可からざる理由を當村戸長及び學校教員等へ勸論されしに非常の感動を惹起し築館小學校の如き七十人の女生徒ハ十中の七過迄洋裝に改めたりと同地ハ隨分僻地の由なるに斯く女生服の進歩するは實に慕すべき事なり

○刺繡　我邦の刺繡ハ美術品の一にして外人の嗜好に適するハ夙に世人の能く知る處なるが私立三重縣女學校にては先頃より刺繡教師を聘し年齡十五歲以上の有志婦人に教授する事になりしに付き生徒ハ日々之が業を受け目下追々進歩の徵候あるよし同地よりの報

○貴婦人の乘馬　貴紳の夫人令孃ハ是迄專ら舞踏のみに熱心なりしが此頃乘馬論を主唱するものありて各自邸に馬塲を開くか或ハ一大稽古場を設けんと相談中也

●海外の女事

○實業世界の婦女子　此頃のザレデー雜誌に實業世界に婦女子を用ゆることを報じて云く英國にては驛遞局に於て七百人餘の女書記あり之は兼て少かの試驗を爲し て合格者を用意し置き口のあきに隨て追々に取用ゆるわけなる由最初は一週十二シルリング(大抵吾が三圓)の給料を受れども追々は年に八百五十弗を受るの望ありとなり。又英國の電信局に在る婦女は年に千二百五十弗を得るの地位あり。又同國の職業保險會社にては一週十シルリング(大抵二圓五十錢)より同三十シルリング(大抵七圓五十錢)までの給料を受るを得べし然るに申込人甚だ多く一婦女のアキ口あれバ直ちに三四百人の願者ありとぞ。又英國に數多ある鐵道會社中にて女を書記に用ゆるは倫敦北西間の鐵道なるが玆には年に百二十五弗乃至三百弗の給料を拂ふと云へり

又近着のウーマンスジヨウナルに云く米洲合衆國にては現に政府に雇使さるゝ女五千人ありて其過半はワシントン府にあり又大統領グラント以來郵便局に女子を用ゆることとなりしが現今にては二千百七十二人ありて悉く其局の事務を總理せり

○非戰爭の檄文　佛蘭西の女風改良會頭グライストラウト夫人は女子戰爭を非とするの檄文を發布したり其文に云く

吾等全國の婦女子は人類の一半たるに係らず從來男子の議事塲より取除かれたるものなり故に今ま吾等は玆に野蠻殘酷なる戰爭を非とすることを宣言す

吾等婦女子は父子家族の如き凡ての世界に於て吾等を連合せしむる所のものを戰爭に由て破壞せられたるものなり故に今ま吾等は人を殺すものと彼の多數の人類を殺して尙且つ名譽榮位を社會より受取る所の者と毫も差違なきことを確認す

吾等婦女子は爾殺す勿れと云へる律法の一言に對して耳を塞ぐと能はず

吾等婦女子は尤も責任ある所の義務を企て且つ之を實行するに適當なるものとして社會の信用を得たるものなるが故に特に協和平安止戰等の事を敎ゆるの使命を有するもの也

吾等婦女子が戰爭の事に關して久しく沈默したるハ即ち人生を昇む所の此の惡むべき事件に對して同犯罪の責を負ふに均しきものなり

此故に吾等は玆に嚴格に戰爭を以て權力の惡むべき妄用なりと認め且つ萬國平和協會の處置の甚だ幸に亦平安なることを贊成す

此故に吾等は全權を破却し去られたる人類の爲に之を主張し亦ろの子孫より奪ひ去られたる父國の爲に之を主張するものなり

此故に吾等女子、母、一家族の保護者たるものは戰爭に由て傷害せられたる家族の爲に、戰爭に由て輕蔑せられたる道德の爲に、男子諸君に請ふ願くは野蠻に對して文明が開く此の大戰爭に關して吾等を助け玉はんことを

吾等婦女子は此書を世の法律制定者に送り其盡力に由て少年を教育する所の教師等が以上の主義を精神として少年に戰爭血流戮親等の大罪を嫌惡するの習慣を起生せしむるが如くろの教育を施すに至るべき法則を制定せられんことを望むべし

斯て右檄文を佛蘭西の上下院の議員へ送りたりと聞く

○女子傳教師　數年前迄は世上一般の輿論として婦人は宣教師の妻たるにあらずんば外國へ傳道するを不可としたり然るに現今の調査によれば米の合衆國より派出したる未婚の女傳道師二千四百人あり宣教師の妻として外國へ趣きたるも亦た大抵同樣の數ありと云ふ。尙ほ現今ウエルスレー大學には八十人ヲベルリン大學には二百人以上の女生徒あり何れも皆な外國傳道師ならんことを企ふ所の人なりとぞ

○女學生の名譽　近着のクイン雜誌に云く英皇五十年祭を祝したる儀式數多あるうちにも其尤も有益にして且つ吾等女流を滿足せしむるに足れるは此の五十年祭のありたると同週間に於て二人の女學生が非常の名譽を博して數多ある男生徒にも優りたることなり抑も英國に於てギルトン及びニウンハムの兩大學に勉學したる女生徒はカムブリツヂ大學の卒業生と均しく學位を受くべきの試驗に應ずるの權あり只だ之に及第したりとも女子は名目の學位を得ず只だ男生徒同樣の實權をのみ得ることとなりたるが今年の學位試驗には右文學の科に於て第一列の位を得たるは男子中に一人もなくして只だギルトン大學より來りたるラムセー孃のみ之を得又中古及び近世語學の科に於ても同樣に男子は一人として第一列の地を得ざりしに只だニウンハム大學より來られたるハーベー孃のみ之を得られたりとなり

●支那婦人の足　支那婦人の足を小くするとは有名の事なれども近來は最早之を嫌ひて追々に止むるものあり然るに彼の我儘洗濯料理編物の如き手工を男子に委賴するの一弊は今に至るも尙ほ止まずと云へり

○日本の奇藥　ゴルドンカムミング孃は此頃のナイテンスセンチウリー雜誌に寄藥と云へる一篇の論文を投寄し日本大坂の某藥店に於て或る生物の黑燒を求め邦人が之を奇藥とするの奇談等を論ぜられたり

○女子投票權　去る六月十一日には英國女子投票權會の委員と女子投票權案を贊成する議員等と下院に於て協議會を開き向來の處置風について打合せを爲したりと云ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

●女學書類賣捌の廣告

一 弊社天の惠と各位の愛顧とにより日に月に隆盛に赴き社員一同感佩の至に不堪候就ては今回更に出版部を設き弊社出版の書籍は勿論他商店にて出版のものと雖ども苟も女學に關係あるものは可成安價と御便宜を專一とし各位の高需に應じ可申候間不相變御愛顧の程伏して希望仕候但し女學外の書籍と雖とも時宜により出版且取次仕候いゝ是又續々御注文被降候

二 書籍御注文之節は書名及著譯者出版者の姓名を記し前金御送附被降度且運賃は實費にて申受候

三 左に掲ぐる代價は皆な定價に候に付御送金の節の時價と郵税とを引去り殘餘は直ちに返濟可申上積に候

四 府下各女學校又は其學生方にして敎科書或は參考書等御入用之節は端書にて其旨御申越被下度左すれば弊社より出向御注文御引受可申候

五 府下朱引内の各位へは御注文書到達の日より遲くも一週以内を期し無料にて直配達可仕候

六 御拂込の代價郵便切手あるときは凡て一割増たる事は兼て御承知置被下度候

七 地方差立荷造の儀は精々注意堅固に取計可申候得共萬一途中にて破損等の節は積問屋又は通運會社にて辨償致候外弊社に於て負擔不仕候且運搬中火災、難船、盜難其他天災より生じたる損害も同斷併し特別條約を以て保險相附候ものは此限に無之候

●書目一覽

著者	書名	册數	定價
船越鼎太郎君著	(産婦小兒)攝生法	一册全	十八錢
渡邊鼎君著	束髮獨案内	一册全	十五錢
横山雅男君著	婚姻論	一册全	三十五錢
	材料新誌(初號ヨリ八號マデ)	全	十錢宛
鈴木弘恭君述	文法口授 一名和文獨案内	一册全	十八錢
鈴木弘恭君述	つれづれ草講義	一册全	十二錢
七條峯太郎君編集	女子必讀 女子作文楷梯	一册全	二十五錢

著者	書名	册數	定價
文部省編集	唱歌集	三册全	二十九錢九厘
全	音樂問答	一册全	三十七錢
同	音樂指南	一册全	四十八錢
同	小學習書帖	八册全	八十七錢九厘
塚原靖君撰	女子讀本	六册全	九十錢
木戸麟君著	卷菱潭先生筆 女子習字本	二册全	一册十一錢三厘
鈴木貞次郎君編	小學男女諸禮式	一册全	二十五錢
近藤瓶城君編集	(男女普通)禮式書	二册全	三十錢
進藤直温纂輯	女子必讀	一卷全	五十七錢
中村敬宇序 湯月北水先生編纂	歐米女禮	一册全	三十錢
外山正一君著	演劇改良論私考	一册全	二十錢
同	社會改良ト耶蘇敎トノ關係	一册全	二十五錢
英國ドイグ夫人著 日本井上勤君譯	細君の友	一册全	五十錢
英國ブラッセー著 日本内田彌八君譯	婦人地球週遊記	一册全	七十錢
田口卯吉君著	日本之意匠及情交	一册全	十五錢
大島盛三君著	日本婚姻之弊害	一册全	十二錢五厘
笹川純一君著	看病ノ心得	一册全	三十錢
岩田文吉君著	小兒健育示要	一册全	四十錢
坪内雄藏君譯	朗闌夫人傳	一册全	六十錢
鈴木券太郎君著	日本婚姻法論畧	一册全	五十五錢
井上直女編	日本婦人纂論	一册全	二十六錢
米國ケーレー氏著 日本嚴本善治君譯	女の未來	一册全	二十錢
久松定弘君譯	高等敎育論	全一册全	五十錢
中村正直先生譯	西國立志編	全一册全	六十錢
ブランソン著	修身原論	全一册全	六十九錢
阿部弘同君著	女子修身訓	全二册全	二十二錢
西坂成一君編	敎女軌範	全一册全	八錢
西坂成一君編	改正敎女軌範要解	全一册全	八錢
飯沼玉龜君編	女子修身訓要解	全二册全	二十五錢
上羽勝衞君著	勸孝通言	二册全	十五錢

●以下次號に廣告すべし

東京日吉町八番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

▲雲南本口 上等麝香廉賣 盈は廿五錢より 皮は廿錢より

麝香は一種無比の良香を有するか故に古來我日本及ひ支那の如きは勿論近今西洋諸國にても頗る之を愛珍するに至りて夫の薔薇等と共に香具上最高の地歩を占めり我國現時文運大に開け婦人亦交際場裏に馳騁するの秋とはありぬ貴婦人方は常に之を携帯して汚臭の襲侵を防かせらるれは啻に衛生の益のみにあらす亦交際上一個の必用品あり何卒御試用の上御佳評奉願上候也

本店 東京神田區小柳町六番地(昌平橋通) 森島松兵衛

今般男女會員ヲ募集ス十三歳以上ニシテ有志ノ者ハ申込アレ規則等ハ本會ニ就テ問合スベシ

廿年八月 麹町區有樂町三丁目二番地 東京唱歌會

小子儀今回出京赤阪病院ニ從事シ傍ラ自宅ニ於テ婦人及小兒科ヲ治療ス

赤阪區氷川町四番地勝氏邸内 三田村敏行

●結婚媒妁所 東京日本橋區檜物町一番地河岸通り角

全國何人ニ限ラス嫁聟養子共媒妁依賴ニ應ス御來談ヲ乞フ

發兌

七月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日
八月。六日 十三日 二十日 廿七日
九月。三日 十日 十七日 廿四日
十月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日

定價

一册。五錢 郵税。一錢 (但府内無郵税)
十册。四十八錢郵税。十錢 (同前)
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を藏する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行 (廿七字詰) 一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町鬪々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新銀町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱仲吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐